

おばあちゃんとぬいぐるみ

【中学年 2 - 1】

じっくり考えるため，書く活動を取り入れる

- (1) 主題名 心のこもったあいさつ〔2 - 1〕 関連項目〔2 - 2〕
 (2) ねらい 礼儀の大切さを知り，だれに対しても真心をもって接しようとする心情を育てる。
 (3) 資料名 「おばあちゃんとぬいぐるみ」
 (4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 あいさつについて考える。	今日，だれにあいさつしましたか。 ・ 家族 ・ 先生 ・ 近所の人	あいさつをした相手について考えることで，資料への関連付けをする。
展 開	2 資料を読み，話し合う。	おばあさんとあいさつしながら，今朝のゆうたろうはどんなことを思っているのでしょうか。 ・ 早くしてくれないかな。 ・ 学校に遅れるよ。 ・ 今日も元気そうだな。	近所の人とあいさつをしたときの経験等を思い起こしながら，主人公の心情に共感させる。
	3 ぬいぐるみをじっと見つめる主人公の心情について考える。	おばあさんに会えなくなった，ゆうたろうの気持ちを想像しよう。 ・ おばあちゃん，どうしたのかな。 ・ 風邪でもひいて寝ているのかな。	主人公の気持ちによりそって考えさせる。
	4 自分の生活を振り返る。	じっとぬいぐるみを見つめながら，ゆうたろうはどんなことを考えていたのでしょうか。 ・ ただ，おはようと言っていただけなのに，一生懸命作ってくれたんだ。 ・ おばあちゃん，ありがとう。 ・ おばあちゃんはこんなに喜んでくれていたんだ。 ・ だれにでもしっかりあいさつするよ。	吹き出しがついたワークシートを配布し，書く活動を取り入れることにより，主人公の気持ちをじっくりと考えられるようにする。
終 末	5 教師の説話を聞く。	あいさつをしてよかったなと思ったことがありますか。それはどんなときですか。 ・ あいさつは，大事なものなんだね。	自分の生活を振り返ることで，他者と気持ちが通じ合う喜びに改めて気付くようにする。 今後への意欲を高めることのできる話をする。

おばあちゃんとぬいぐるみ

「わあっ、学校におくれちゃうよ。いそがなくちゃ。」

ゆうたろうが学校にむかって走っていると、まがり角に、いつものおばあさんがいました。おばあさんは、アパートに一人でくらししています。毎朝、学校に行く時間になると、外に出て、「おはよう。」と声をかけてくれます。初めはめんどくさそうにしていたゆうたろうですが、ちかごろは、おばあさんのすがたを見かけると、じぶんから「おはよう。」と声をかけるようになりました。

「おはようございます。」

「おはよう、今日はおそいんだね。」

「うん、おくれそうなんだ。それじゃ……。」

「あっ、ちよつとまって。ぼく、何年生なの?」

「三年生だよ。それじゃあね。」

「いつてらっしい。」

つぎの日から、おばあさんのすがたを見かけることはありませんでした。(どうしたのかな。)いつもの曲がり角にくるたびに、ゆうたろうはおばあさんのことを心配していました。

それから数日して、ゆうたろうたちのクラスに、みんせい民生委員の石川さんがやってきました。手には、ぬいぐるみを持っています。少し、でこぼこしたねこのぬいぐるみです。

「なにそれ、変なの。」

だれかの声がありました。すると、石川さんが話し始めました。

「わたしの家の近所のアパートにひとりぐらしのおばあさんが住んでおられました。おばあさんは、毎朝、元氣にあいさつしてくれる男の子のことをいつも話してくださっていました。あいさつするだけで自分まで元氣を分けてもらってるようだって、とてもうれしそうでしたよ。」

(あっ、あのおばあさんのことだ。)ゆうたろうは、はっとしました。

「今度、遠くの方に行くことになったので、そのお礼に教室にかざってほし

いとおっしゃって、このぬいぐるみをわたしにあずけて行きました。おばあさんは、本当によろこばれていましたよ。実は、手と目が不自由な方でしたが、どうしてもみなさんにお礼がしたいからと、何日もかけてこのぬいぐるみをつくられたんです。教室にかざってください。」
石川さんは少しなみだぐみながら話されました。
ゆうたろうはじっと、そのぬいぐるみを見つめていました。

それから毎朝、ゆうたろうは教室にはいると、そのぬいぐるみに向かって「おばあちゃん、おはよう。」
と声をかけるようになりました。ぬいぐるみのむこうで「おはよう。」と、おばあちゃんがにっこりとほほえんでくれているようでした。



活用に生かすための実践報告

「おばあちゃんとぬいぐるみ」

の実態をよく把握し、これまでの体験が引き出せるよう発問を工夫してほしい。

1 主題の設定

・何気なく交わす「おはよう」の一言は、お互いの心を豊かにするものである。より多くの人と望ましい人間関係を築き、互いに気持ちのよい生活を送っていこうとする心情を育てていくためにこの資料を作成した。

・あいさつ運動や高齢者とのふれ合いが予定されていれば、それらの活動と関連付けて本資料を扱うのが効果的だと考える。また、生活目標等と関連付けた指導も考えられる。

2 指導過程の工夫

・終末について、指導案では教師の説話としているが、地域の方や高齢者の協力が得られれば、日々の交流の大切さについて話をしていただくとよいと思う。

・実施した授業では、実際にぬいぐるみに語りかける活動も取り入れた。よく似たぬいぐるみか、絵や写真を活用することも効果的だと思う。

3 発問の工夫

・主人公の心情に沿った発問とした。中心発問では、ぬいぐるみを前にした主人公の心情について、書く活動も取り入れながら、一人一人にじっくりと考えさせてほしい。

・また、一般化については、学級の児童

4 児童の反応（授業後の感想）

【ぬいぐるみを見つめている主人公】

・「ぼくのあいさつをおばあちゃんはこのように喜んでくれたんだね。」

・「このぬいぐるみをおばあちゃんだと思って大切にするよ。」

・「これからすすんであいさつするよ。」

・「あいさつは、人と人の心をつなぐ大切な役割があるんだな。」

・これまでのあいさつ運動や地域の高齢者とのふれ合いの中での体験を想起しながら、考えることができた。

5 実践者からの一言

・教室に今も飾ってあるぬいぐるみ。数年前に、ある高齢者からいただいたこのぬいぐるみのエピソードをもとに本資料を作成した。

・「敬老の日」に合わせて、高齢者に手紙を書く活動の前に本時の授業を実施した。その手紙を受け取った目の不自由な高齢者の方が、どうしても返事を出したいと、地元の郵便局に相談に訪れるというエピソードも新たに生まれた。

・授業及び事後の活動の中で、真心を込めて、高齢者に接しようとする心情を培うことができたと考える。

（警固屋小学校 胡 敏和）